

推進協議会で当面取り扱うテーマについて

課 題	関係機関が取得する災害関連情報の共有	水害や防災に関連する展示施設等の連携・防災教育等での有効活用	水防災を防ぐために働く人の認知	(新規) 大規模浸水対策に関する検討
H25年度～ H26年度前半での取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関が取得する水災害関連情報を一元的に提供する「信濃川下流域情報共有プラットフォーム(STEP1)」を開設(H26.5～) 	<ul style="list-style-type: none"> ○関係施設の連携について基本方針を検討 <ul style="list-style-type: none"> ・展示施設等を巡るモデルツアーコースの作成 ・現稼働施設スタンプラリー(カード)の作成 ・遺構等の冊子(治水歴史巡り)への反映 	<ul style="list-style-type: none"> ○7.13水害10周年行事での広報実施 <ul style="list-style-type: none"> ・信濃川下流水防訓練 ・親子見学会 ・7.13水害10周年シンポジウム 	—
H26年度後半からの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○STEP1の課題分析を踏まえた改良・追加(STEP2) <div data-bbox="285 1182 667 1300" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">水災害情報共有WG</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○上記の基本方針実現に向けた詳細な検討 ○教育関係者へのニーズ聞き取り等を踏まえた有効策の展開(信濃川下流域情報アーカイブの開設) <div data-bbox="977 1182 1346 1300" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">水防災教育支援WG</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○更なる認知機会の拡大(学校の授業での紹介等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○堤防が決壊し、大規模な洪水氾濫が生じた場合のリスクの把握・共有と被害軽減に向けた関係機関連携した対策 <div data-bbox="1641 1182 2026 1300" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">大規模浸水対策WG</div>

機関名	役職	氏名 ※敬称略	専門 分野	タイトル	主な意見の内容
新潟大学 災害・復興科学 研究所	所長 教授	丸井 英明	総括	信濃川下流域 の課題 ～豪雨災害の 教訓～	<ul style="list-style-type: none"> ▶近年、異常気象に起因する豪雨災害が頻発しており、洪水はん濫や土砂災害の件数や規模が増大している。 ▶ハードな施設による完全な「防災」から一定の被害の発生を許容し、ソフトで対策する「減災」への方針転換が必要ある。 ▶災害リスクの高い地域への防災投資を集中させる必要がある。
					<ul style="list-style-type: none"> ▶災害リスクの評価に関しては、洪水の予測システム、あるいは具体的な洪水時の水の挙動というものを、できる限り学術的に把握して明らかに評価していくことも大切である。
新潟大学 危機管理本部 危機管理室	教授	田村 圭子	防災	水害対応に 係る知見 蓄積のための AAR手法の 提案	<ul style="list-style-type: none"> ▶同時多発水害から広域大規模水害へと至る水害の被害を流域関係機関で協働し、軽減するということを目標に掲げてはどうか。 ▶関係機関で最悪のシナリオを想定しておく必要がある。
					<ul style="list-style-type: none"> ▶洪水後には、関係機関が協力し、AAR(事後検討)を行う必要がある。